

＜中学校 国語＞

基礎的・基本的内容の定着を図る学習指導の工夫

－「読むこと」における音読と多様な言語活動を通して－

南風原町立南星中学校教諭 野 原 麻 紀

内容要約

基礎的・基本的内容の定着を図るために、「読むこと」において正確な音読と、3領域1事項を相互に関連させた多様な言語活動、さらに様々な学習指導の工夫に取り組んだ。漢字フラッシュカードの活用、教育機器の活用、既習教材の活用、そして評価を生かした学習カードの活用などである。その結果、音読への積極的な態度が育ち、多様な言語活動で生徒が主体的に活動したことによって、基礎的・基本的内容の定着を図ることができた。

【キーワード】 音読 多様な言語活動 基礎的・基本的内容の定着

目 次

I テーマ設定の理由	61
II 研究構想図	62
III 研究内容	62
1 基礎的・基本的内容と基礎的・基本的事項の捉え方	62
2 「読むこと」における具体的な言語活動例	62
3 音読活動	63
4 多様な言語活動	63
5 学習指導の工夫	64
IV 授業実践	65
1 単元名	65
2 単元設定の理由	65
3 単元の指導目標	66
4 評価の観点	66
5 単元の指導と評価計画	66
6 学習指導の工夫	67
7 本時の指導計画	67
8 授業仮説の検証と考察	69
V 研究の考察	69
1 音読活動	69
2 多様な音読活動	70
VI 研究の成果と今後の課題	70
1 研究の成果	70
2 今後の課題	70

＜中学校 国語＞

基礎的・基本的内容の定着を図る学習指導の工夫

－「読むこと」における音読と多様な言語活動を通して－

南風原町立南星中学校教諭 野 原 麻 紀

I テーマ設定の理由

国語は「言語の教育」である。言語を扱った活動を展開してこそ言語の教育と言える。その考えのもとに、現行の学習指導要領へと改訂されている。改訂の趣旨を踏まえて「話すこと・聞くこと」「書くこと」及び「読むこと」の領域に、具体的な「言語活動例」が新たに示されている。そのねらいは、実践的な指導の充実を図る観点から、指導内容と言語活動との密接な関連を図り、生徒の主体的な学習活動を促しながら学習の効果を上げるためである。

言語活動は、学校や生徒の実態に応じ、生徒が、相手・目的・場所などを意識し、多様な言語活動へと幅を広げることが可能である。多様な言語活動の中でも、「読むこと」の領域において、言語感覚が豊かになり思考力や想像力が養われ、さらに、国語を適切に表現し正確に理解する能力を高めることのできる「音読」は、基礎的・基本的内容の定着を図る上で大切な言語活動の一つである。

これまでも、音読が基礎的・基本的内容の定着に大切な言語活動であると捉え授業実践をしてきたが、教材文をすらすら音読できる力を十分育てることができなかった。その原因として、音読指導が不十分だったことや、基礎的・基本的内容の定着の様子を、教師が把握しないままに終わっていたケースが多かったことが挙げられる。よって、基礎的・基本的内容を定着させるために、読みにおける基礎的・基本的事項を身に付けさせ、音読と3領域1事項の相互の関連を生かした多様な言語活動を取り入れることが大切であると考えた。

生徒にとって、基礎的・基本的内容の定着が図られる音読とは、表記文字を正確に音声化することから始まると言える。漢字を正しく読むことによって基礎的・基本的事項を身に付けさせ、それとともに正確な音読、そしてすらすら音読へと技能を高めることにより、文章の内容を理解したりする基礎的・基本的内容の定着へとつながる。つまり、段階に応じたねらいに即した意図的・計画的な音読指導が大切である。

また多様な言語活動は、生徒による主体的な学習活動であり、基礎的・基本的事項である知識・技能を定着させるために大切な活動である。そこで身に付けた知識・技能を生かして図られるのが基礎的・基本的内容の定着である。例えば、読むことの学習を「読むこと」だけで完結させるのではなく、感想や意見をまとめたり、発表し合ったりして、「読むこと」と「書くこと」「話すこと・聞くこと」及び「言語事項」を関連させた学習を展開することにより、基礎的・基本的内容の定着がより確実になる。

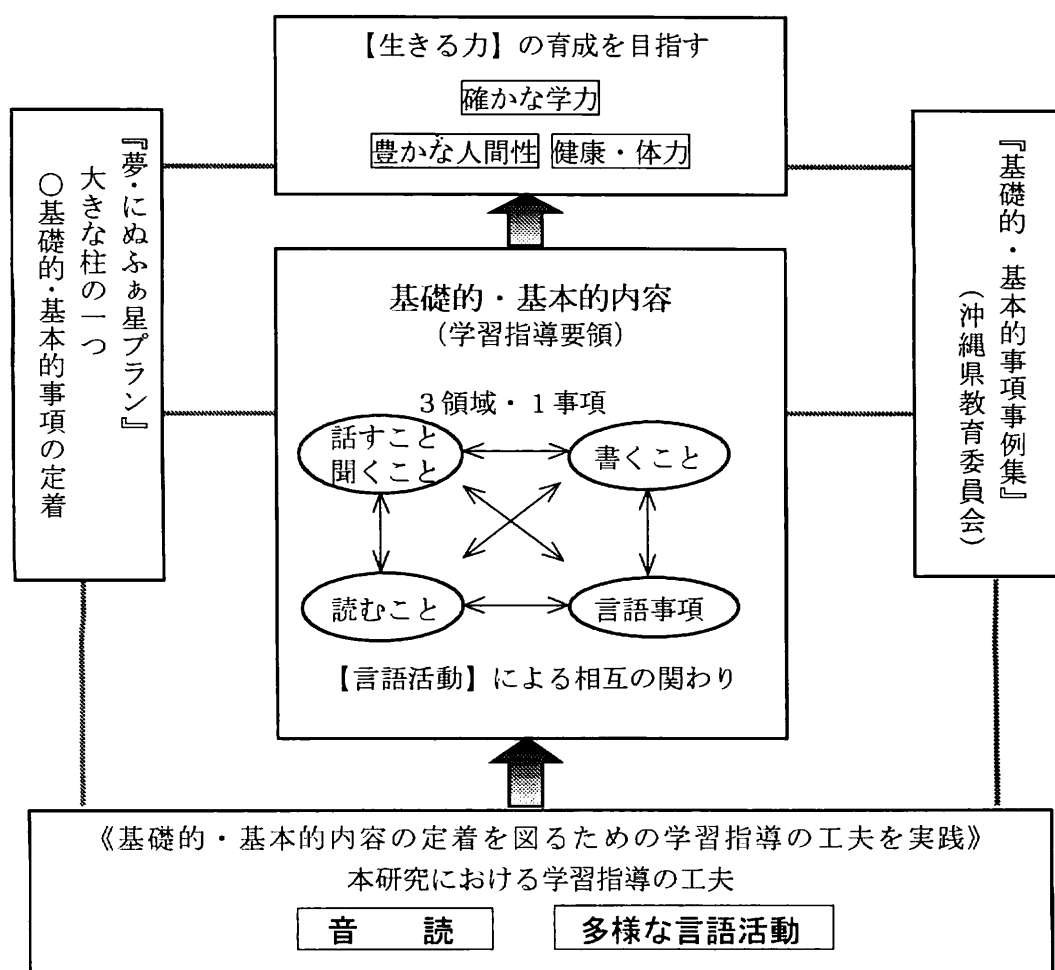
なお、「読むこと」の領域を取り上げた理由は次の二点である。一つは、学習指導要領に示された「読むこと」における言語活動例の中の一例として、音読が挙げられていること。つまり、「読むこと」の教材文は毎時間の音読が可能で、生徒自身が自分の声を通して、音読の充実感を味わうことができるからである。二つ目は、「読むこと」の領域である本教材『食感のオノマトペ』の説明的文章を、多様な言語活動で展開し、生徒に意欲を持って学習に臨ませ、さらに基礎的・基本的内容を身に付けさせたいからである。以上の理由から「読むこと」の領域が音読を通じた基礎的・基本的内容の定着のために適切であると判断した。

そこで、基礎的・基本的内容の定着を図るためには、「読むこと」において音読と多様な言語活動を行うことが大切であると考え、本テーマを設定した。

＜研究仮説＞

「読むこと」において音読と多様な言語活動を取り入れた学習指導を行えば、基礎的・基本的内容の定着が図られるであろう。

Ⅱ 研究構想図



Ⅲ 研究内容

1 基礎的・基本的内容と基礎的・基本的事項の捉え方

(1) 基礎的・基本的内容

基礎的・基本的内容とは、「生きる力」を育成することをねらいとして改訂された「学習指導要領 国語第2章目標及び内容」のことである。つまり学校教育や他教科の学習を支える基盤としての言語能力や、現実の社会生活において生きて働く実践的な言語能力のことである。

(2) 基礎的・基本的事項

基礎的・基本的事項とは、学習指導要領を受けて「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの領域において確実に身に付けさせる指導事項として、沖縄県教育委員会が平成14年に作成した『基礎的・基本的事項事例集』に示された「国語科の基礎的・基本的事項」のことである。これらの事項は学習指導要領の内容を具体化して示されたものであり、「読み・書き・計算」などの力をはじめとする各教科における指導事項として最小限度身に付けるべき基礎的な知識・技能のことである。

2 「読むこと」における具体的な言語活動例

『中学校学習指導要領(平成10年12月) 解説—国語編—』から、「読むこと」に示されている具体的な言語活動例をまとめると表1のようになる。

表1 「読むこと」における具体的な言語活動例

具 体 的 な 言 語 活 動 例	(ア) 様々な文章を比較して読んだり、調べるために読んだりすること。 ①情報活用 ・目的や意図に応じて複数の文章を読んだり、調べるために読んだりする ・学校図書館を活用する ②読書指導 ・説明的な文章を読む学習と関連させて共通する内容の書物を読む ・詩の学習と関連した詩集を読む ・ある作者の小説を読む学習と関連したその作家の他の作品を読む ③「必要な情報」を集めるための読み方 ・もっと深く知るためや、材料を集めたりするための読み ・要約、詳しく読む、抜粋、自分の考えを深める、様々な文章を読み比較、ものの見方や考え方を対比、同一作家の複数の作品の比較読みなど、目的と必要に応じた多様な読み
	(イ) 目的や必要に応じて音読や朗読をすること。 ①自分の声を聞く ・理解を一層深めたり、理解の成果を確かめたりする ②声を他者に聞かせる ・理解の成果を共有する ③リズムや言葉の響きの特徴をつかむための音読 ④理解の成果を表現するための朗読 ⑤内容を深く吟味するための黙読

第2学年及び第3学年の
指導事項と関連

3 音読活動

(1) 教科書の音読

「教科書をすらすら音読できる」技能は、教科指導において最低限押さえるべきである。その根底にあるのが正確な音読である。このことは、国語科のみならず他教科にも言えることで、教科書を正確にすらすら音読できるということは、学習の第一歩である。教科書に書かれていることは学習の基盤であるため、正確に読み、内容を正しく捉え、理解しなければならない。そのためには、教科書を繰り返し音読し、初めて学習する漢字や難しい語句などにも慣れ、すらすら読めるように学習することが大切である。

(2) 基礎的・基本的内容の定着のための音読

音読とは、表記文字を正しく音声化することである。そのためには、新出漢字を正しく読めなくてはならない。そこで新出漢字を正しく読めるようにするための学習指導の工夫として、漢字フラッシュカードを活用し、基礎的・基本的事項を定着させる。それをもとに、正確な音読が身に付きすらすら音読できるようになる。その段階になったとき、読む能力が高まり基礎的・基本的内容の定着が図られるのである。

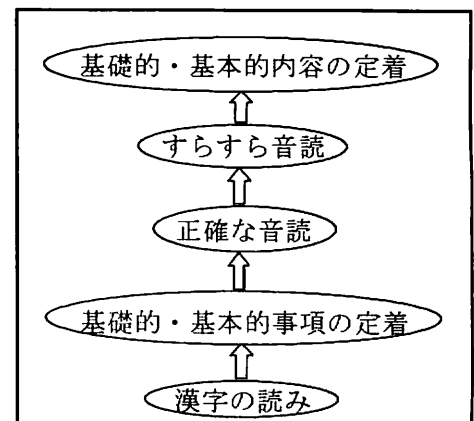


図1 基礎的・基本的内容の定着のための音読

4 多様な言語活動

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」及び「言語事項」を関連させ、多様な言語活動を授業の中で展開することにより、基礎的・基本的事項を習得させ、基礎的・基本的内容の定着をより確実に図ることができる。本研究においては教材『食感のオノマトペ』を通して、「読むこと」の基礎的・基本的内容の定着を図ることを目指している。そこで、教材『食感のオノマトペ』における多様な言語活動を次のように展開する。

表2 教材『食感のオノマトペ』における多様な言語活動

基礎的・ 基本的領域	「読むこと」の領域		活動の 領域	○多様な言語活動と例
	基礎的・ 基本的事項	基礎的・ 基本的事項		
ア 文脈の中における 語句の意味を正確 にとらえ、理解す ること	① 文脈の中にお ける語句の意 味を正確に捉 え、理解する こと	① 文脈の中にお ける語句の意 味を正確に捉 え、理解する こと	話すこと	○語句とその意味を関連づけるために、実際に体験する 例：「食感のオノマトペ」とその意味を関連づけるために 実際に食べ物を食べてその食感について伝える ○学習したことを多様な方法で表現する 例：「オノマトペ」を使って4コマ漫画を創作する ○創作した作品を発表する 例：OHCを使って自分の作品を発表する
			聞くこと	
ウ 文章の中心の部分 と付加的な部分、 事実と意見などを 読み分けて、文章 の構成や展開を正 確にとらえ、内容 の理解に役立てる こと	② 段落ごとに内 容をとらえる こと	② 段落ごとに内 容をとらえる こと	書くこと	○内容をとらえるために、音読する 例：段落ごとに音読を行い、内容をとらえる
			読むこと	
エ 文章に表わされて いるものの見方や 考え方を理解し、自 分のものの見方や 考え方を広げるこ と	③ 文章の構成や 展開を正確に 捉え、内容の 理解に役立て ること	③ 文章の構成や 展開を正確に 捉え、内容の 理解に役立て ること	話すこと	○構成について考えるために、音読する 例：段落の内容を振り返り、大きなまとまりとして考 えることを意識しながら、音読する ○構成について考えるために、話し合う 例：構成を分かりやすくするために図式化するとどうな るか、段落番号カードを使って、グループで話し合う
			聞くこと	
オ 文章に表わされて いるものの見方や 考え方を理解し、自 分のものの見方や 考え方を広げるこ と	② 書き手のもの の見方をとら えること	② 書き手のもの の見方をとら えること	読むこと	○書き手のものの見方をとらえるために、音読する 例：これまで学習してきた内容を振り返り、書き手の立 場でもものの見方をとらえるために、音読する ○書き手のものの見方をとらえるために、話し合う 例：他者と自分の考えを照らし合わせ、書き手のものの 見方について、話し合う
			話すこと	
			聞くこと	

5 学習指導の工夫

(1) 漢字フラッシュカードの活用

新出漢字を漢字フラッシュカードとして毎時間の導入に活用する。読みを繰り返し、何度も同じ漢字に触れさせることで読みの定着を図る。またその時間にいくつの漢字が読めたかを学習カードに記録させ、次時への意欲を高める。さらに、新しい教材に入る前に新出漢字を一覧表にまとめたプリントを生徒に配布し、漢字の予習として活用するように促し、事前に漢字学習の態勢を整えさせておく。

ことばをとどける		食感のオノマトペ		*漢字フラッシュカード事前チェック		早川文代	
漫画	薄味	香辛料	濃厚	若年層	及ぶ	驚く	迫る
まんが	うすあじ	こうしんりょう	のうこう	じゃくねんそう	およぶ	おどろく	せまる
微妙	依然	中庸	頻度	繊細	顕著	甘さ	
びみょう	いぜん	ちゅうよう	ひんど	せんさい	けんちょ	あまさ	

資料1 新出漢字一覧表

(2) 教育機器の活用

教育機器を活用し情報を効果的に提示することにより、生徒の関心・意欲を高めることをねらう。国語科では主に視聴覚機器が効果的で、機器の特性を生かして授業の中で適切に活用する。活用にあたっては、授業の目標を明確にした情報提示の仕方や機器の特性・機能を把握し、教師が操作技術を身に付けることが大切である。

本研究で活用する教育機器は次の3点である。 □パソコン □プロジェクター □OHC

(3) 既習教材の活用

領域の関連性や学習教材間の系統を生かした既習教材を扱う。既習教材で定着を図った基礎的・基本的内容を、本教材を通してフィードバックすることによって、より定着を図ることが可能となる。

(4) 評価を生かした学習カードの活用

授業のまとめで活用する学習カードは次の視点で構成する。

- a. 本時のめあて確認
- b. 基礎的・基本的事項や内容の確認問題（チョイ問）
- c. 自己評価
- d. 音読チェック
- e. 漢字フラッシュカードで読めた漢字の数
- f. 授業の感想

授業で指導した基礎的・基本的事項や内容をその時間内に生徒自身がチョイ問で確認し、自己評価を行う。そうすることで、基礎的・基本的事項や内容の定着の様子を把握するための形成的評価ができる。さらに次の指導へ生かすことができ、指導と評価の一体化が可能となる。

◆学習カード◆ めあて 年組 番氏名	【チョイ問】 3. 2. 1.	【自己評価】 3. 2. 1.	【音読チェック】 . . .	《授業のひと言感想》
	答え 3. 2. 1.	A A A B B B C C C D D D	A B C D	漢字の読み

資料2 学習カード

IV 授業実践

1 単元名

7 ことばをとどける 『食感のオノマトペ』 早川文代著

2 単元設定の理由

(1) 教材観

本教材は説明的文章で、生徒の多くが苦手としているジャンルのひとつである。しかし、説明的文章は他のジャンルに比べ論理的な構成で書かれており分かりやすいという特徴をもつ文章である。

本教材『食感のオノマトペ』は、「食感」に関することばの表現や見方・考え方を分かりやすく述べるというもので、ことばをより身近なものとして感じることができるよう書き出しが工夫されている。このような文章を音読し、さらにそのことばを実際に自分自身が声に出して表現することで、より一層の理解と納得を得ることができる。また調理学の研究家がことばについて論じるという点で意外性があり興味をそそられ、生徒各々のことばの世界を広げる可能性を持つ内容である。

(2) 生徒観

学習面において個人差が大きく、授業の進度に配慮が必要である。特に説明的文章は、文章構成や内容の理解に差が出てしまう傾向がみられる。

国語が全ての学習の基礎を成す教科であることを考えると、生徒に基礎的・基本的内容を身に付けさせることは必須である。そのために生徒自身の音読活動や生徒主体の多様な言語活動を積極的に取り入れるなどの工夫や、個人差に応じた適切な支援を行う。

また思春期を迎えている生徒は、人前で発言することや音読することに抵抗や恥ずかしさを感じるなど、心理的に敏感な時期でもあるため、生徒の心理状態を観察し、その点にも配慮しながら指導していかねばならない。

(3) 指導観

「言語の教育」といわれる国語の授業。教室中に生徒の想いや考えをのせたことばが飛び交い、国語の基礎的・基本的内容を身に付ける場が、授業である。ここでは食感に関するオノマトペを日常生活に関連させた言語活動を取り入れた学習指導と、表記された文字を自分自身の声を出して音読することによって、文字をことばとしてより意識させ、国語の基礎的・基本的内容の定着を図ることを目指す。

この時期の生徒の多くは思春期を迎え、人前での発言や音読に抵抗や恥ずかしさを感じるがある。そのため、音読の導入段階では一斉音読や複数の生徒による音読を行い、生徒が音読に自信をも

ちはじめる時期を見計らい、自主的な音読発表へと移行していくような授業を展開するよう、指導に配慮する。

授業の導入では、関心や意欲付けのための教育機器や漢字フラッシュカードを活用し、学ぶ姿勢を整えさせることを重視した学習指導を実践する。また、毎時間の授業のまとめに学習カードを使って、その時間のめあてに即した確認問題（チョイ問）に挑戦し、学習が理解できたか生徒自身が確認できるようにすることと、教師の形成的評価にも充てる。

3 単元の指導目標

- (1) オノマトペに関心を持たせ、意味や効果について理解させる。（読むことーア、言語事項-(1)ウ）
- (2) 筆者のものの見方や、情報を提示する意図をとらえさせる。（読むことーオ）

4 評価の観点

- 国語に関する関心・意欲・態度：オノマトペに関心を持ち、実際に使って表現している。
- 読む能力：文章の内容を理解し、筆者のものの見方や情報を提示する意図をとらえることができる。
- 言語に関する知識・理解・技能：オノマトペの語の意味を理解し、実際に使うことができる。

5 単元の指導と評価計画

次 (時)	本時の ねらい	学習活動 ●学習指導の工夫	多様な 言語活動	基礎的・ 基本的事項	評価の観点 A 具体的な姿の例 B 具体的な評価規準 () 評価方法 ☆ C の生徒への手だて
1 (1) 本時	ことばに関心を持たせ「オノマトペ」の意味をとらえさせる	①パワーポイントで既習学習に関するクイズ問題を解く ②食感クイズ ③オノマトペの意味を知る ④音読する ●教育機器の活用 ●既習教材の活用 ●漢字フラッシュカードの活用 ●音読活動 ●評価活動	【話・聞】 食べ物を食べて食感を伝える 【読む】 教科書を音読する	【読むこと】 ア① 語句の意味を正確にとらえ、理解すること	<u>関心・意欲・態度</u> A：オノマトペに関心を持ち実際に使って表現している B：オノマトペに関心を持っている（観察・学習カード） ☆表現の工夫に注目させる <u>言語に関する知識・理解・技能</u> A：オノマトペの具体例を挙げている B：オノマトペの意味を捉えている（観察・学習カード） ☆クイズの様子を思い出させ、どんな表現をしていたかヒントを与える
2 (1)	意味段落Ⅰ～Ⅲの内容をとらえさせる	①意味段落Ⅰの音読の後にワークシートで内容をとらえる ②意味段落Ⅱの音読の後にワークシートで内容をとらえる ③意味段落Ⅲの音読の後にワークシートで内容をとらえる ●漢字フラッシュカードの活用 ●音読活動 ●評価活動	【読む】 内容をとらえるために音読する	【読むこと】 ウ② 段落ごとに内容をとらえること	<u>読む能力</u> A：文章の内容を理解してワークシートを自力で解答している B：文章の内容を理解してワークシートを解答している（観察・ワークシート・学習カード） ☆ワークシートのやり方や内容の読みとり方を個別に支援する
3 (1)	説明的文章の構成をつかませる	①音読する ②構成を分かりやすく図式化するために既習教材を参考に話し合う ●漢字フラッシュカードの活用 ●音読活動 ●既習教材の活用 ●評価活動	【読む】 構成を知るために音読する 【話・聞】 構成を知るために話し合う	【読むこと】 ウ③ 文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てること	<u>読む能力</u> A：他の構成にも関心を示し、既習の説明的文章の構成を考えている B：文章の構成を図式化している（観察・ワークシート・学習カード） ☆文章の内容を再度確認し、構成のパターンを示し、選ばせる
4 (1)	オノマトペを使って表現させる	①音読する ②オノマトペの表現を使って4コマ漫画を創作する ③創作した4コマ漫画を	【読む】 内容や構成を意識した音読をする	【読むこと】 ア① 文脈の中における語句の意味を正	<u>関心・意欲・態度</u> A：授業で扱ったオノマトペ以外にも挑戦して表現している B：授業で扱ったオノマトペを使って表現している

(2) 授業の仮説

- ① 食感に関する多様な言語活動を行うことにより、教材に対する関心・意欲が高まるであろう。
- ② 教材文を生徒自身が音読することにより「語句の意味を正確にとらえ、理解すること」の基礎的・基本的内容の定着が図られるであろう。

(3) 本時の展開（１／５）

- ・めあて１：何かを伝えたいとき、どんなことばが適切か表現を工夫してみよう。
- ・めあて２：「オノマトペ」という語の意味を分かったら。

時 間	学 習 活 動	多様な 言語活動	○指導上の留意点 ☆教師の支援 ●学習指導の工夫	評価の観点 A の具体的な姿の例 B 具体的な評価規準 () 評価方法 ☆C の生徒への手だて
導 入 10 分	①パワーポイントを見ながら既習教材で学習した擬態語・擬音語をクイズで確認する		●教育機器の活用 (パソコン、プロジェクター) ☆「竜」で学習した擬態語・擬音語を確認する ●既習教材の活用 ○様々なことばを受け止める	 食感クイズに挑戦
展 開 35 分	②めあて１を確認する ③食感クイズでその食べ物への食感を表現する ④食感を言葉で表現し合う ⑤総称「オノマトペ」ということばを知り、意味をとらえる ⑥めあて２を確認する ⑦教師の全文範読を聞く ⑧漢字フラッシュカードを読む ⑨一斉音読する	【話・聞】 食べ物を食べての食感を伝える 【話・聞】 教師の範読を聞く 【読む】 教科書を音読する	○めあて１を板書する ☆「食感」についての表現を意識させる ☆お互いの表現を大切にさせる ☆「竜」で学習した擬態語・擬音語を確認し「オノマトペ」ということばと関わりがあることに気づかせる ○めあて２を板書し、改めて「オノマトペ」の意味を確認させる ☆難語句に線を引き、漢字に読み仮名をふりながら聞くようにさせる ●漢字フラッシュカードの活用 ●音読活動 ☆机間指導をしながら音読の様子を確認する	関心・意欲・態度 A：「オノマトペ」に関心を持ち意欲的に表現している B：「オノマトペ」に関心を持って表現している (観察・自己評価) ☆食感をイメージさせ、友達表現に耳を傾けさせる  教科書を音読
ま と め 5 分	⑩学習カードを記入する	【書く】 感想を書く	○まとめる時間を確保する ●評価活動	言語に関する知識・理解・技能 A：オノマトペの具体例を挙げている B：オノマトペの意味を捉えている (観察・学習カード) ☆クイズの様子を思い出させ、どんな表現をしていたかヒントを与える

8 授業仮説の検証と考察

【本時の授業仮説】

- ① 食感に関する多様な言語活動を行うことにより、教材に対する関心・意欲が高まるであろう。
- ② 教材文を生徒自身が音読することにより「語句の意味を正確にとらえ、理解すること」の基礎的・基本的内容の定着が図られるであろう。

食感に関する多様な言語活動を行うことと、教材文を生徒自身が音読すること、そしてさまざまな学習指導の工夫を行ったところ、自己評価による図3のような結果が出た。

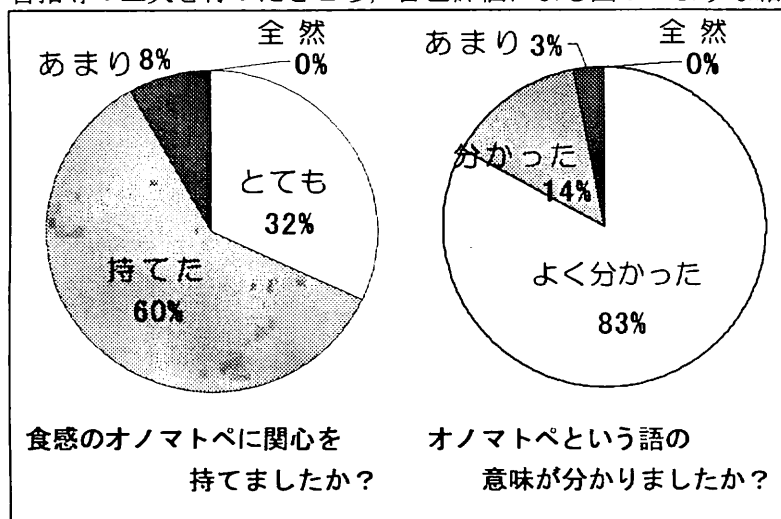


図3 自己評価による結果

「食感のオノマトペに関心を持てましたか？」の問いに対し、関心を持てた生徒は 92 %であった。実際に食べ物を食べて表現するという体験的な言語活動を行ったことにより、これから学習する教材に関心を示したことが分かる。次に「オノマトペという語の意味が分かりましたか？」の問いに対し、分かったと答えた生徒は 97 %であった。このことは、教材への関心意欲を高めた後に音読を行うことにより、生徒の学習への意欲が持続し、理解を深めたからだといえることができる。

V 研究の考察（研究仮説の検証）

【研究仮説】

「読むこと」において音読と多様な言語活動を取り入れた学習指導を行えば、基礎的・基本的内容の定着が図られるであろう。

1 音読活動

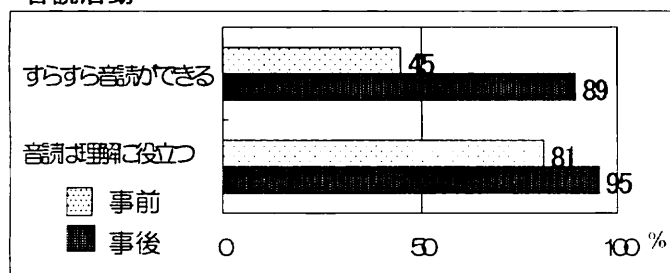


図4 音読に関するアンケート

毎時間の授業に音読活動を取り入れることによって 89 %の生徒がすらすら音読ができるようになった。このことは、基礎的・基本的内容の定着を図るための大きな基盤となる。また、音読が文章を理解するために役立つと感じた生徒が 95 %にも達した。これは音読をしながら、文章を理解していくことを体感した生徒が多かったことを示している。

音読活動に取り組む流れとして、第1時から第3時は一斉音読や複数の生徒による音読を行い、音読に対する抵抗をなくすよう配慮した。そして第4時に生徒による自主的な音読を促したところ、段落ごとの音読で9名の生徒が1人で音読することができた。教師の配慮によって、音読が1人でもできる段階になった時、発表の場を設けたことは生徒にとっても安心感が増し、音読に対する前向きなイメージが定着した。このことから、他の生徒にとっても音読のよさを感じることができ、音読への積極的な態度を育むことができた。つまり、毎時間継続してきた音読活動によって基礎的・基本的内容の定着につながったのである。

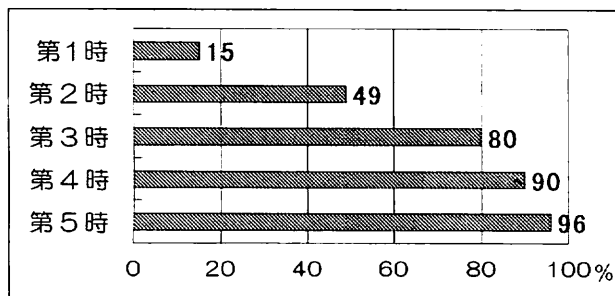


図5 漢字フラッシュカードが全部読める

また、音読を支える学習指導の工夫の中でも、漢字フラッシュカードの活用による新出漢字の読みの定着は顕著である。第1時で全部の漢字フラッシュカードが読めた生徒は全体の15%であったが、第5時の最終時には96%もの生徒が全ての漢字フラッシュカードが読めるようになった。つまり、言語における知識・理解・技能としての漢字の読みの力をつけることができたのである。このことから、正確な音読やすらすら音読ができるようになるためには、漢字を正確に読む力を育てることが大切であることが分かった。

2 多様な言語活動

本教材『食感のオノマトペ』では、以下の3つの基礎的・基本的内容の定着を図ることをねらいとした。毎時間の基礎的・基本的内容の定着状況を把握するためのチョイ問の結果をまとめると、次のようになった。

表3 基礎的・基本的内容の定着の様子(37人中)

多様な言語活動	定着を図りたい基礎的・基本的内容	正答	誤答
・食感クイズ ・創作活動	ア 文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解すること	35人	2人
・グループ話し合い ・段落ごとの音読	ウ 文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てること	30人	7人
・グループ話し合い	オ 文章に表われているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方を広げること	35人	2人

本研究では、導入時から音読と多様な言語活動を展開してきた。これらを通して生徒達は次のようなコメントをしている。「オノマトペがよく分かった」「グループで考えることができたから楽しかった」「授業の意味が分かって楽しかった」「オノマトペが漫画に生かして面白い」「読むのがうまくなったと思う」「ひっかからないで読めた」などである。さらにこれらの活動を通して、定着を図ることをねらった3つの基礎的・基本的内容に関するチョイ問を、ほとんどの生徒が正確に解答することができた。つまり、音読と多様な言語活動によって、基礎的・基本的内容の定着に結びついたのである。

VI 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 「読むこと」において音読活動を毎時間行うことにより、すらすら音読ができる生徒が増えた。
- (2) 漢字フラッシュカードを活用することで、新出漢字をほとんどの生徒が読めるようになった。
- (3) 毎時間の音読と多様な言語活動を組み合わせ、「読むこと」の基礎的・基本的内容の定着を図ることができた。

2 今後の課題

- (1) 音読の効果的な学習指導法の工夫
- (2) 授業のねらいに沿った、言語活動の工夫

<主な参考文献>

- | | | | |
|------------------|------------------------------|------|--------|
| 伴 一孝著 | 『子どもに力をつける基礎・基本の徹底システム』 | 明治図書 | 2003 年 |
| 河野庸介著 | 『中学校新国語科の授業モデル「読むこと」編』 | 明治図書 | 2001 年 |
| 中学校国語科教育実践講座刊行会編 | 『中学校国語科教育実践講座／音読・朗読・群読の学習指導』 | ニチブン | 1997 年 |